

このマップは
想定異なる2つの
浸水域
を比較したものです

この計算結果は1つのシナリオに過ぎません

つぎに襲来する津波は、このマップに示した大きさの津波とは限りません。これより大きくなるかもしれませんし、小さくなるかもしれません。想定にとらわれず、まず避難することを検討してください。

本ハザードマップは、平成26年3月に三重県が公表した「過去最大クラスの南海トラフ地震」及び「理論上最大クラスの南海トラフ地震」による津波浸水想定を基に作成しています。

約100~150年周期で発生する、歴史的に地域で起こり得ることが実証されている津波

「過去最大クラスの南海トラフ地震」
による津波の浸水想定

マグニチュード **8クラス**
過去の宝永地震(1707) M8.6
また、安政南海地震(1854) M8.4

最大津波高 **9.3m** 到達時間 **4分**
(津波高20cm)

発生頻度は極めて低いですが、理論上起こり得る最大クラスの津波

「理論上最大クラスの南海トラフ地震」
による津波の浸水想定

マグニチュード **9.1**

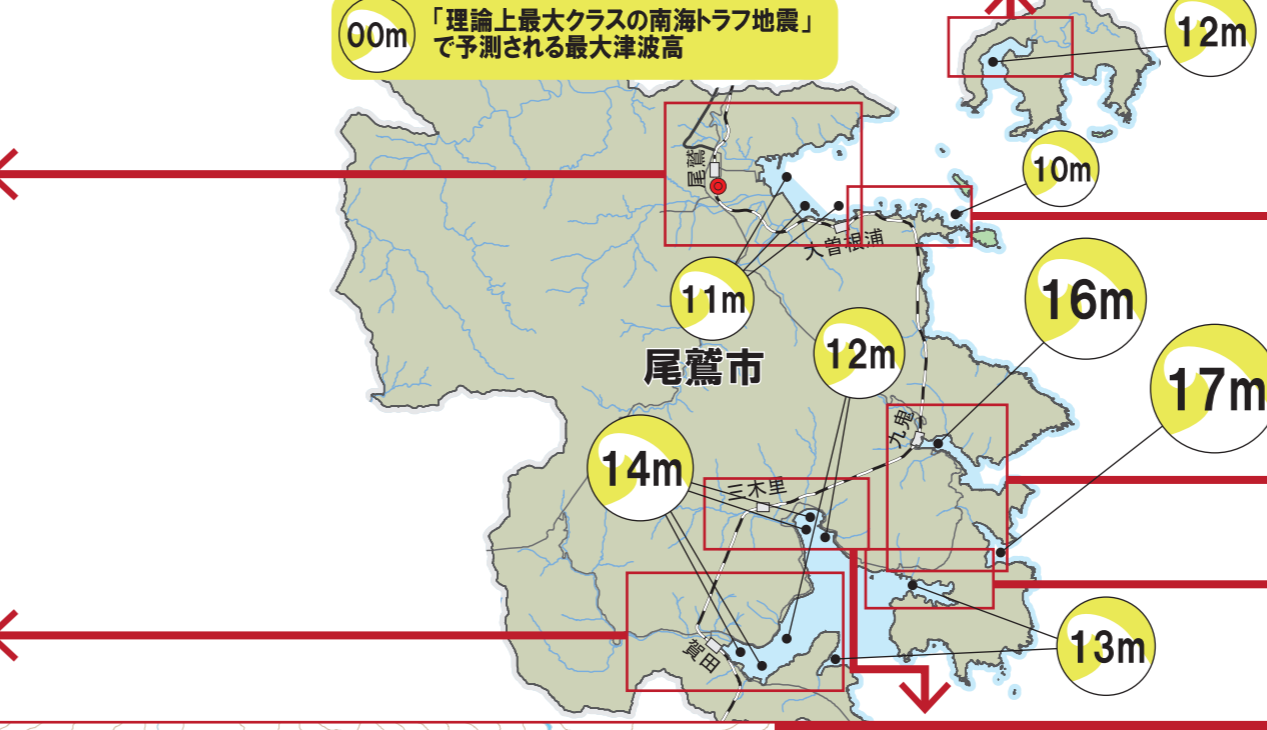
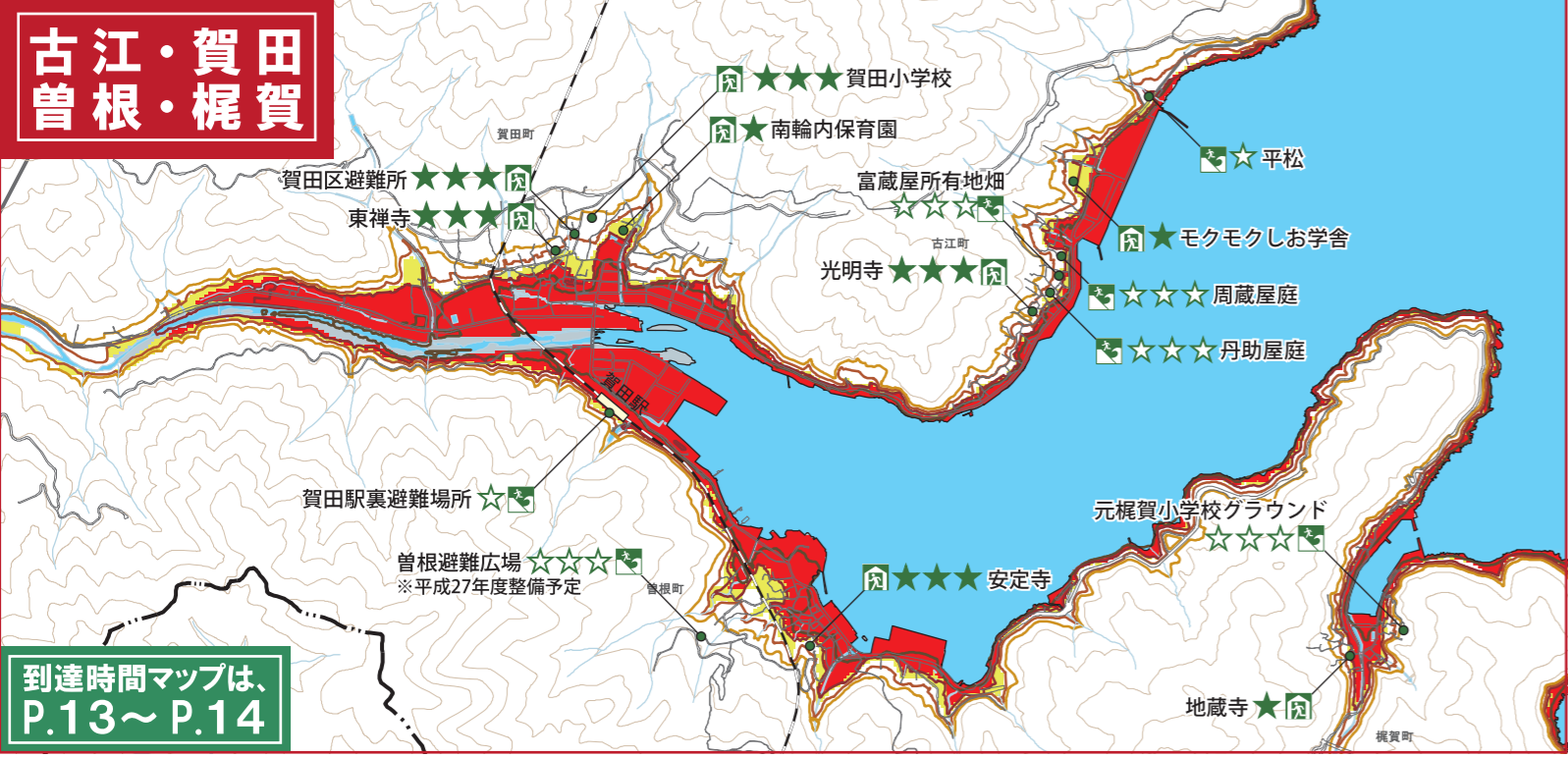
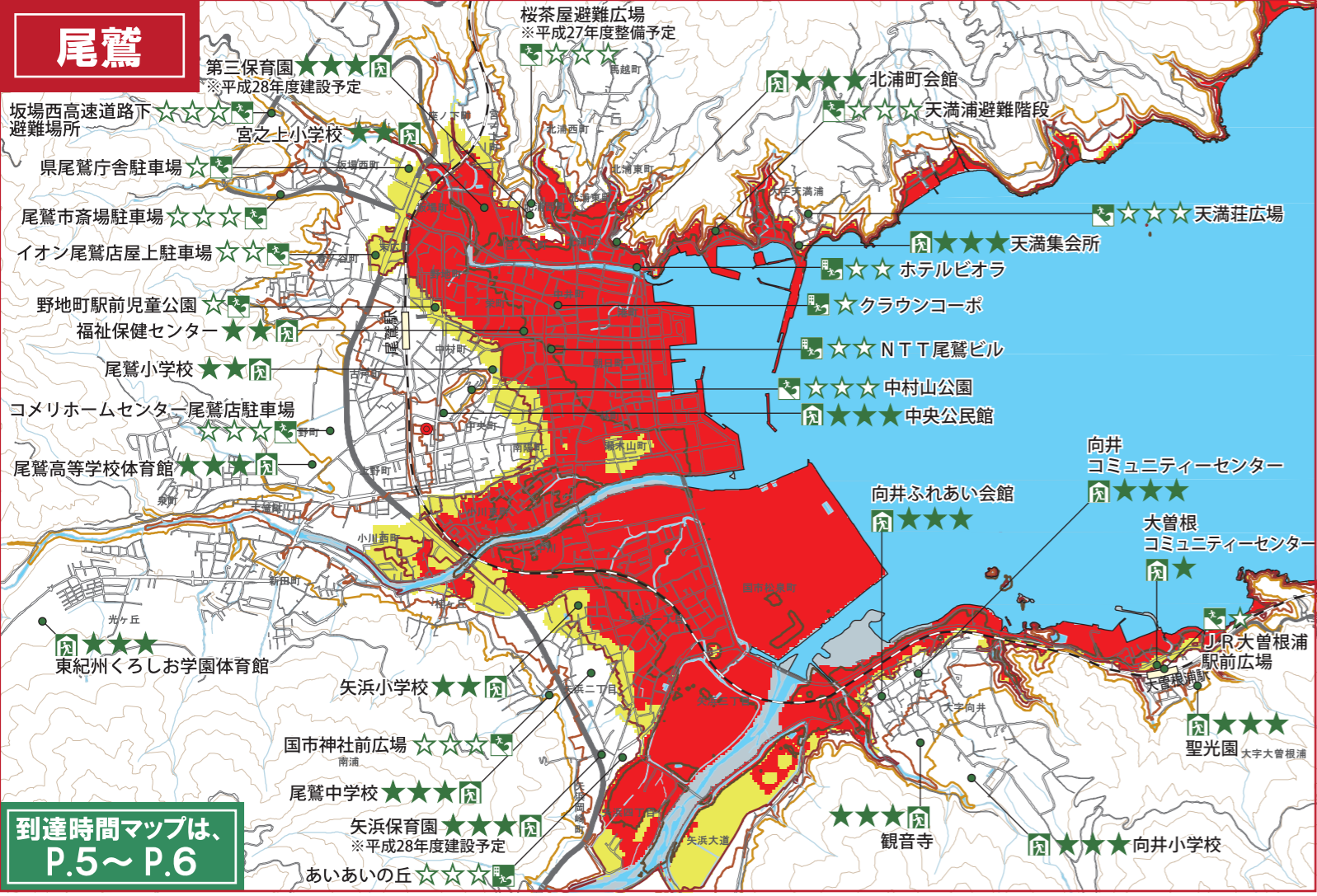
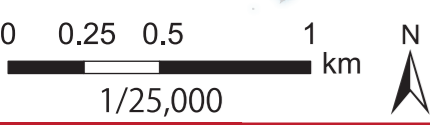
最大津波高 **17m** 到達時間 **4分**
(到達時間15分) (津波高1m)

避難場所	収容避難所	学校の校舎など雨や風を防げる施設で、災害が長引いた場合には、長時間滞在することが可能です。
	緊急避難場所	公園や私有の建物など、一時的に避難する場所や建物で、長時間滞在することは困難です。
	指定津波緊急避難ビル	

避難先の安全レベル	市では2つの浸水想定結果を踏まえ、避難先の安全レベルを設定しています。	安全レベルと2つの浸水想定での利用可否の関係	
		過去最大クラス	理論上最大クラス
安全レベル3 ★★★(収容避難所) ☆☆☆(緊急避難場所、指定津波緊急避難ビル)	・浸水想定地域外で安全な場所	利用可能 (浸水域外)	利用可能 (浸水域外)
安全レベル2 ★★(収容避難所) ☆☆(緊急避難場所、指定津波緊急避難ビル)	・安全レベル3へ避難する余裕がないときの緊急避難先	浸水域外の避難先は敷地が利用可能 浸水域内の避難先は建物の上階のみ利用可能	建物の上階のみ利用可能 (浸水域内)
安全レベル1 ★(収容避難所) ☆(緊急避難場所、指定津波緊急避難ビル)	・安全レベル3、2へ避難する余裕がないときの緊急避難先	浸水域外の避難先は敷地が利用可能 浸水域内の避難先は建物の上階のみ利用可能	利用不可能

凡例

- 過去最大クラスの南海トラフ地震による津波の浸水想定域
- 理論上最大クラスの南海トラフ地震による津波の浸水想定域
- 標高30m
- 標高20m
- 標高10m
- 標高5m



浸水域マップ